


第2回通常総会

1987
昭和62年6月30日(火)

 人工知能学会

JAPANESE SOCIETY FOR ARTIFICIAL INTELLIGENCE

〒115 東京都渋谷区上原1-32-19-201
TEL.03-485-6641 FAX.03-485-6642

第2回通常総会次第

日 時 昭和62年6月30日（火）12時10分～12時40分

場 所 学習院大学記念会館A会場（1階、2階）

- (1) 開 会
- (2) 会長挨拶
- (3) 議長選出
- (4) 昭和61年度事業報告
- (5) 昭和61年度決算報告、監査報告
- (6) 昭和62年度事業計画
- (7) 昭和62年度予算
- (8) 会則改正
- (9) 昭和62年度役員構成
- (10) 昭和62年度評議員構成
- (11) 閉 会

昭和61年度事業報告

1. 概要

最近の人工知能への関心の高まり、関係分野における研究者の意見交換の場としての学会設立を望む声に対応して、61年1月から具体化の準備にはいった。関係者多数の賛同をえて同年4月26日に発起人会を開催、引き続き募金、広報活動を進めるとともに、一方、学会誌創刊号の早期発行の編集準備に着手、7月24日に設立総会を成功裏に終了して学会活動が正式に発足した。

同年9月から理事会を毎月開催するとともに、編集、庶務、企画、財務、事業の各委員会をスタートさせ、組織の強化、学会誌の発行体制整備、事業の計画立案などを進めるとともに、学界、団体、企業の協力のもとに会員募集に力を入れた結果、個人会員1814名、賛助会員66社の加入、学会誌3冊の発行、セミナー2回の開催および第1回全国大会の準備に着手するなど、当初の目標をほぼ達成することができた。

設立初年度の61年7月24日から62年3月31日までの期間に行った事業の概要は、次のとおりである。

2. 会員現況（62年3月31日現在）

正会員	1,660名
学生会員	154名
賛助会員	66社115口

3. 学会誌の発行

○ 第1巻第1号（通巻1号）

- ・創刊号
- ・巻頭言、祝辞4編、学会誌編集にあたって、学会設立趣意書、学会会則、学会誌原稿執筆案内、設立総会報告（概要）、理事・顧問・編集委員会名簿、入会のお勧め、解説6編、論文8編、その他で構成
- ・昭和61年9月1日発行（158ページ）

○ 第1巻第2号（通巻2号）

- ・祝辞3編、学会設立までの経過、設立総会報告、記念講演5編、解説3編、技術資料1編、論文3編、ショートノート3編、その他で構成
- ・昭和61年12月1日発行（116ページおよび広告18ページ）

○ 第2巻第1号（通巻3号）

- ・巻頭言、寄書、特集「高次人工知能へ向けてのパラダイム」解説6編、一般解説2編、論文3編、ショートノート3編、その他で構成
- ・昭和62年3月1日発行（136ページおよび広告18ページ）

4. セミナーの開催

○ 第1回人工知能セミナー

- ・日 時 昭和61年12月16日（火） 9時30分～17時
- ・場 所 名古屋大学大型計算センター新館4階演習室（名古屋）

- ・プログラム

1) 総論「いまなぜ人工知能なのか」	福村晃夫 (名大)
2) 人工知能ソフトウェアのアーキテクチャー	吉田雄二 (名大)
3) 人工知能ハードウェアのアーキテクチャー	後藤厚宏 (ICOT)
4) 知識表現と処理	上野晴樹 (東京電機大)
- ・参加者 79名

○ 第2回人工知能セミナー

- ・日 時 昭和62年2月17日(火) 9時30分～16時30分
- ・場 所 サンシャインシティ文化会館7階会議室(東京・池袋)
- ・テ ー マ 「認知科学と人工知能」
- ・講 演

1) 認知科学とは	無藤 隆 (お茶の水女子大)
2) 認識の道具としてのAI	佐伯 胖 (東大)
3) 人工知能道	豊田 順一 (阪大)
4) 自然言語理解と認知科学	石崎 俊 (電総研)
- ・参加者 147名

5. ニュースレターの発行

学会誌の季刊発行を補い、学会活動の最新情報の会員伝達をはかるため、次のとおりニュースレターを3回発行した。

○ ニュースレター No.1

第1回セミナー(61年12月16日・名古屋)開催のお知らせ、全国大会計画案を中心に編集(A4判1ページ)、学会誌 Vol.1, No.2(61年12月1日発行)とともに配布した。

○ ニュースレター No.2

第2回セミナー(62年2月17日・東京)開催のお知らせを中心に編集(A4判1ページ)、第1回全国大会論文募集案内とともに62年2月末に配布した。

○ ニュースレター No.3

第3回セミナー(62年5月13日・大阪)開催のお知らせを中心に、共催、協賛の催し物案内とともに編集(A4判1ページ)、共催の「宇宙用人工知能/ロボット/オートメーション」、
「人工知能システムの枠組み」両シンポジウムの論文募集案内とともに3月末に配布した。

6. 後援の催し物

○ 第1回「大学と科学」公開シンポジウム

期日 昭和62年2月2日～3日
主催 第1回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
場所 東京・有楽町朝日ホール

7. 理事会・委員会の活動

○ 理事会：7回開催

・第1回(61年9月11日)

理事の担務を企画、事業、編集、財務、庶務に分けてそれぞれ担当理事を決定、各担当理事の提案、初年度予算案、編集委員会規程案、会員募集方法が審議され、学会誌発行に関するオーム社との覚書が承認された。

・第2回(61年10月17日)

会員募集ポスター案、第1回全国大会構想案、セミナー開催計画が審議され、評議員選挙

規程が承認された。

- ・第3回(61年11月21日)
会計規程案、第1回全国大会実行計画および予算案が審議され、第1回セミナー開催、ニューズレターNo.1発行および事務局機能強化のための専従者(事務局長、事務局員1名)の採用が承認された。
- ・第4回(61年12月19日)
第1回全国大会論文募集案内が審議され、企画委員会規程、会員募集ポスターが承認され、図書館などを対象とした機関購読会員制度の導入、および機能強化のための事務局移転が原則承認された。
- ・第5回(62年1月23日)
研究会運営規約案、人工知能ハンドブック作成企画が審議され、ハンドブック作成、第1回全国大会論文募集案内、ニューズレターNo.2発行、第2回セミナー開催が承認され、61年度評議員の選出について、初年度のため理事推薦にもとづき理事会の承認で決定することが承認された。
- ・第6回(62年2月13日)
会計規程案、研究会運営規程案、第3回セミナー開催、ニューズレターNo.3発行が審議され、賛助会員の特典、61年度評議員選出について寄付者および賛助会員(5口以上)に候補推薦を依頼することが承認された。
- ・第7回(62年3月20日)
研究会規程案、役員、評議員の選出方法に関する提案、会計規程に付帯する細則案、62年度の各委員会、事務局の事業計画案、予算案が審議され、図書館などを対象とした特殊購読会員募集、第3回セミナー開催、ニューズレターNo.3発行、会計規程、61年度評議員候補名簿が承認され、評議員についてはご本人の承諾をえて決定することとした。

○ 評議員会

定例会議を5月15日に開催。

○ 委員会

編集委員会、庶務委員会、企画委員会、財務委員会、事業委員会および第1回全国大会組織委員会・プログラム委員会、人工知能ハンドブック編纂委員会を随時開催。

8. 学会事務局の強化

設立当初東大工学部境界領域研究施設大須賀研究室内に事務局を仮設したが、会員の急増、学会活動の活発化に対応するため、61年12月1日付けで事務局長および事務局員1名の専従者を採用、62年1月9日から事務室を独立(東京都渋谷区上原1-32-19-201)させ、機能強化をはかった。

9. 全国大会運営事務の委託

第1回全国大会の準備着手に際し、運営事務を(株)共立研究センターに委託することとし、同社に大会事務局(東京都港区大門2-3-14, 一松ビル1号館402)を設けた。

以上

昭和61年度決算報告書

貸借対照表 (昭和62年3月31日)

1) 資産の部

科 目	金 額
1. 流動資産	
(1)現金預金	41,116,306
現 金	(97,182)
預 金	(6,019,124)
定期預金	(35,000,000)
(2)未収金	3,376,500
(3)貸付金	800,000
流動資産計	[45,292,806]
2. 有形固定資産	
(1)備 品	876,000
有形固定資産計	[876,000]
3. その他の固定資産	
(1)入居保証金	3,500,000
(2)電話架設料	145,600
その他の固定資産計	[3,645,600]
資 産 合 計	49,814,406

2) 負債の部

科 目	金 額
1. 流動負債	
(1)前納金	2,192,000
(2)未払金	2,000,000
流動負債計	[4,192,000]
2. 固定負債	
(1)国際会議積立金	3,000,000
(2)法人化準備金	2,000,000
(3)退職金引当金	200,000
固定負債計	[5,200,000]
負 債 合 計	9,392,000

3) 正味財産の部

科 目	金 額
1. 基本財産	
基本財産計	[35,000,000]
2. 剰余金	
(1)次期繰越収支差額	4,546,406
(2)次期繰越増減差額	876,000
剰余金計	[5,422,406]
正味財産合計	40,422,406
負債及び正味財産合計	49,814,406

財 産 目 録
(昭和62年3月31日)

科 目	金 額
(資産の部)	
1. 流動資産	
(1) 現金預金	
イ) 現 金	
現金手持有高	97,182
ロ) 普通預金	
第一勧業銀行北沢支店 (代表幹事口座)	3,776,996
第一勧業銀行北沢支店 (事務局長口座)	539,598
ハ) 振替貯金	
東京振替貯金局	1,702,530
ニ) 定期預金	
第一勧業銀行北沢支店	35,000,000
(2) 未収金	
イ) 入会金・年会費	1,274,500
ロ) 会誌別刷料	640,000
ハ) 会誌印税	405,000
ニ) 会誌広告料	1,057,000
(3) 貸付金	
イ) 大会運営資金貸出金	800,000
2. 有形固定資産	
(1) 備 品	
イ) ハソコ1式	288,000
ロ) ソフトウェアBASE II	126,000
ハ) 空調設備1式	410,000
ニ) 金 庫	52,000
3. 有形固定資産	
(1) 人居保証金	3,500,000
(2) 電話架設料	145,600
資 産 合 計	49,814,406

科 目	金 額
(負債の部)	
1. 流動負債	
(1) 前納金	
イ) 62年度新規入会金 ・会費	1,610,000
ロ) 継続会員会費	572,000
ハ) その他預り金	10,000
(2) 未払金	
イ) O A化費	2,000,000
2. 固定負債	
イ) 国際会議積立金	3,000,000
ロ) 法人化準備金	2,000,000
ハ) 退職金引当金	200,000
負 債 合 計	9,392,000
正 味 財 産	40,422,406

注1：基本財産は定期預金35,000,000円
注2：固定資産の減価償却額はない

「1」収支計算の部（自昭和61年7月24日～至昭和62年3月31日）

1) 収入の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
基本財産運用収入	900,000	0	▲900,000
入会金収入	4,100,000	3,474,000	▲626,000
正会員入会金		3,320,000	
学生会員入会金		154,000	
会費収入	20,400,000	23,096,000	2,696,000
正会員会費		13,280,000	
学生会員会費		616,000	
賛助会員会費		9,200,000	
事業収入	13,500,000	4,385,000	▲9,115,000
会誌別刷料		2,227,000	
会誌印税		405,000	
設立總會収入		182,000	
セミナー参加費		1,554,000	
会誌など頒布代		17,000	
雑収入	2,500,000	2,540,076	▲40,076
会誌広告料		2,380,350	
郵送料		9,050	
雑費		94,300	
受取利息		56,376	
収 入 合 計	41,400,000	33,495,076	▲7,904,924
固定資産取得支出	0	876,000	▲876,000
備品購入支出	0	876,000	▲876,000
支出小計	41,600,000	(23,748,870)	▲17,851,130
引当金繰入額		5,300,000	5,300,000
国際化学協会立会費繰入額	0	3,000,000	
法人化学協会立会費繰入額	0	2,300,000	
国際化学協会引当金繰入額	0	0	
予備費	0	0	0
当期支出合計	41,600,000	28,948,870	▲12,651,130
前期繰越収支差額	▲200,000	4,540,400	4,740,400

2) 支出の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
設立費 学会設立費用	2,000,000	1,034,566	▲965,434
管理費	12,000,000	8,794,754	▲3,205,246
家賃		980,000	
共益費		20,000	
光熱費		28,150	
リース料、他		113,050	
什器備品費		757,910	
会議費		330,780	
旅費交通費		4,810	
通信運搬費		772,770	
印刷費		796,450	
消耗品費		446,455	
給料手当		1,478,658	
臨時雇賃金		849,060	
支払手数料		3,070	
雑費		111,591	
資料購入費		17,000	
OA化費		2,000,000	
雑支出		85,000	
事業費	27,600,000	13,043,350	▲14,556,650
会誌発行費		10,632,600	
会誌別刷印刷費		874,950	
会誌執筆謝礼		192,000	
会誌発送用封筒製作費		351,500	
セミナー費用		992,300	
固定資産取得支出	0	876,000	876,000
備品購入支出	0	876,000	876,000
支出小計	41,600,000)	(23,748,670)	▲17,851,320
引当金繰入額		5,200,000	5,200,000
国際会議積立金繰入額	0	3,000,000	
法人化準備基金繰入額	0	2,000,000	
退職金引当金繰入額	0	200,000	
予備費	0	0	0
当期支出合計	41,600,000	28,948,670	▲12,651,330
前期繰越収支差額	▲200,000	4,546,406	4,746,406

「2」正味財産増減計算の部（自昭和61年7月24日～至昭和62年3月31日）

1) 増加の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
1) 備品増加額	0	876,000	876,000
増加額合計	0	876,000	876,000

2) 減少の部

科 目	予 算 額	実 算 額	差 異
減少額合計	0	0	0
次期繰越増減差額	0	876,000	876,000
剰余金合計	▲200,000	5,422,406	5,622,406

3. 全国大会・研究会の開催

○ 全国大会

期 日 昭和62年6月30日～7月2日

場 所 東京大学・記念講堂（東京）

編 成 日本知能学会

・ 特別講演（カーネギーメロン大学 金出教授）

・ パネルディスカッション

・ 一般講演（127件）

・ 学生キャリアル講演（8件）

○ 研究会

本年度から発足、下部学会研究会が今秋からスタート。

・ “人工知能の現状”

・ “ヒューマン・マシンインタフェースと認知モデル”

・ “人工知能ツールとエキスパートシステム”

4. セミナーの開催

年5回開催の予定、計画の心のほかのとおり。

○ 第3回セミナー

期 日 昭和62年5月13日

場 所 新館3ビル スカイルーム2号室（大阪）

テーマ 人工知能アサカルト

5. ニュースレターの発行

年5回程度、随時発行の予定

6. 関連学会などとの共催・協賛

（共催）

昭和62年6月30日
人工知能学会

昭和62年度 事業計画案

1. 運営・活動方針

会則の目的に沿って、学会誌の季刊発行から隔月発行への移行準備、第一回全国大会の開催、セミナーの開催、ニューズレターの発行、研究会活動の発足、特殊購読会員制度の新設、他学会との協調により学会活動の活発化、多様化を進めるとともに、引き続き組織・基盤の強化につとめて会員サービスの充実をはかる。

2. 学会誌の発行

本年度の季刊発行から来年（第3巻）から隔月発行への移行を準備する。

- 第2巻第2号（通巻4号）62年6月1日発行
特集企画「AIツールのユーザインタフェース」
- 第2巻第3号（通巻5号）62年9月1日発行
特集企画「知的プログラミングの基礎」
- 第2巻第4号（通巻6号）62年11月1日発行
特集企画「AIマシンのアーキテクチャー」
- 第3巻第1号（通巻7号）63年1月1日発行
特集企画「エキスパートシステム」
- 第3巻第2号（通巻8号）63年3月1日発行
特集企画 未定

3. 全国大会・研究会の開催

○ 全国大会

期 日 昭和62年6月30日～7月2日
場 所 学習院大学・記念講堂（東京）
構 成 ・会長記念講演
・特別講演（カーネギーメロン大学 金出教授）
・パネルディスカッション
・一般講演（127件）
・チュートリアル講演（8件）

○ 研究会

本年度から発足。下記の3研究会が今秋からスタート。

- “人工知能基礎論”
- “ヒューマン・インタフェースと認知モデル”
- “人工知能ツールと知識システム”

4. セミナーの開催

年5回開催の予定。計画のものは次のとおり。

○ 第3回セミナー

期 日 昭和62年5月13日
場 所 新阪急ビル スカイルーム2号室（大阪）
テーマ 人工知能アラカルト

5. ニューズレターの発行

年5回程度、随時発行の予定

6. 関連学会などとの共催・協賛

（共催）

昭和62年度予算書(案)
(昭和62年4月1日～昭和63年3月31日)

科	目	内容	予算額
1) 収入の部		・宇宙用人工知能/ロボット/オートメーション・シンポジウム	
	期日	昭和62年11月9日～10日	
	場所	日本都市センター(東京・千代田区)	
	共催	NASDA、NAL、日本ロボット学会	
		・人工知能システムの枠組み・シンポジウム	
	期日	昭和62年11月19日～20日	17,000,000
	場所	機械振興会館ホール(東京・港区)	1,000,000
	共催	情報処理学会	50,000
		(協賛)	200,000
		・第1回インテリジェントFA・シンポジウム	300,000
	期日	昭和62年7月21日～23日	500,000
	場所	大阪マーチャングイズマート(OMM)ビル	1,000,000
	主催	日本自動制御協会	500,000
		・'87人工知能(AI)展	1,200,000
	期日	昭和62年7月6日～9日	500,000
場所	東京流通センター(東京・大田区)	500,000	
主催	日本経済新聞社	5,000,000	
	・第11回COMPSAC国際会議	200,000	
期日	昭和62年10月5日～9日	50,000	
場所	高輪プリンスホテル(東京・品川区)	2,000,000	
主催	IEEE・情報処理学会	5,000	
	・第3回ヒューマン・インターフェース・シンポジウム	100,000	
期日	昭和62年10月27日～29日		
場所	大阪	30,140,000	
主催	計測自動制御学会	20,000,000	
	・第5回日本ロボット学会学術講演会	1,500,000	
期日	昭和62年11月26日～28日	500,000	
場所	筑波大学第三学部	500,000	
主催	日本ロボット学会	5,700,000	
7. 理事会・委員会			
○ 理事会			
毎月1回開催(8月は休会)			
○ 評議員会			
年1回開催			
○ 委員会その他			
編集、庶務、企画、財務、事業、研究会運営(発足予定)の各委員会、第1回全国大会組織・プログラム委員会、人工知能ハンドブック編纂委員会は随時開催			
8. 理事会名簿			
(別紙参照)			
子算費			以上
当財団支出合計			50,000,000
次期繰越収支差額			4,000,000
支出合計			54,000,000

昭和62年度予算書（案）

（自昭和62年度4月1日～至昭和63年3月31日）

1) 収入の部

科 目	予 算 額
基本財産運用	1,400,000
入会金収入	1,776,000
正会員入会金	1,680,000
学生会員入会金	96,000
会費収入	37,500,000
正会員会費	20,000,000
学生会員会費	1,000,000
賛助会員会費	16,000,000
特殊購読会員会費	500,000
事業収入	19,440,000
会誌別刷料	3,000,000
会誌印税	1,600,000
全国大会参加費 他	9,740,000
セミナー参加費	3,000,000
会誌など頒布代	2,100,000
雑収入	5,125,000
会誌広告料	5,000,000
郵送料 他	25,000
受取利息	100,000
当期収入合計	65,241,000
前期繰越収支差額	4,546,406
収 入 合 計	69,787,406

2) 支出の部

科 目	予 算 額
管理費	17,985,000
家賃	1,680,000
共益費	60,000
光熱費	240,000
リース料 他	360,000
什器備品費	400,000
会議費	1,080,000
旅費交通費	500,000
通信費	1,300,000
印刷費	500,000
消耗品費	500,000
給料手当等	8,920,000
雑費	200,000
資料購入費	60,000
OA強化費	2,000,000
保険料	5,000
福利厚生費	180,000
事業費	38,140,000
会誌発行費	20,000,000
会誌別刷印刷費	1,500,000
会誌執筆謝礼	450,000
会誌発行諸経費	650,000
全国大会開催費	9,740,000
セミナー開催費	2,750,000
ニューズレター発行費	950,000
ポスター作成費	100,000
研究会、シンポジウム等 補助費	1,500,000
会議費	500,000
引当金繰入額	6,200,000
国際会議積立金繰入額	3,000,000
法人化準備基金繰入額	3,000,000
退職金引当金繰入額	200,000
予備費	3,000,000
当期支出合計	65,325,000
次期繰越収支差額	4,462,406
支 出 合 計	69,787,406

人工知能学会会則 (改正案)

昭和 61年 7月24日 制定

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、人工知能学会 (英文名: Japanese Society for Artificial Intelligence, 略称JSAI) と称する。

第2条 (所在地)

本会は (仮) 事務所を、〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1 東京大学工学部境界領域研究施設 大須賀研究室内に置く。

第3条 (支 部)

本会は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

2. 支部には支部長をおく。

第2章 目的および事業

第4条 (目 的)

本会は、人工知能に関する総合的学問研究の促進をはかり、会員相互間および関連学協会との、交流の場を提供し、我が国のこの分野の学問および産業の進歩発展に貢献するとともに、国際的活動を通して、世界のこの分野の進歩に貢献することを目的とする。

第5条 (事 業)

本会は、第4条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1) 学術集会、研究会、講習会などの開催
- 2) 学会機関誌「人工知能学会誌」、および英文誌“Journal of Japanese Society for Artificial Intelligence” (略称: JJS AI) およびその他の刊行物の発行
- 3) 国内外の関連学会、諸団体との協力活動
- 4) 学術的調査・研究の推進
- 5) その他、本会の目的を達成するための諸活動

第3章 会 員

第6条 (会員の種別)

本会の会員は、次の各号に該当し、所定の手続きを完了した者とする。

- 1) 正 会 員 本会の対象とする領域またはそれと関連ある領域において専門の学識、技術または経験を有する者

昭和61年6月30日 改正

第2条 (所在地)

本会は事務所を、〒151 東京都渋谷区上原1-32-19-201に置く。

- 1) 全国大会、研究会、講習会などの開催

- 2) 学生会員 本会の対象とする領域またはそれと関連ある領域において勉学中の大学学部、大学院修士課程あるいはこれに準ずる学校に籍を置く学生
- 3) 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の事業を後援する個人、法人または団体
- 4) 名誉会員 本会の対象とする領域に於いて特に功績があり、理事会の決議を経て推薦された者

第7条 (会費)

本会の会費は次のとおりとする。

- 1) 正会員 8000円
 - 2) 学生会員 4000円
 - 3) 賛助会員 1口 80000円
2. 名誉会員は、会費を収めることを要しない。
 3. 既納の入会金および会費は、いかなる事由があってもこれを返還しないものとする。

第8条 (入退会)

正会員および学生会員の入会は、正会員の場合2000円、学生会員の場合1000円の入会金を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

2. 賛助会員の入会は、理事会の決議により、会長がこれを推薦する。
3. 名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となる。
4. 本会の会員で退会しようとする者は、理由を付して退会届けを提出しなければならない。

第9条 (資格の喪失)

会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- 1) 退会
- 2) 禁治産および準禁治産の宣告
- 3) 死亡、失踪および団体会員の場合はその団体の解散
- 4) 除名

第10条 (除名)

会員が次の各号の一つに該当するときは、理事会の議決を経て、これを除名することができる。

- 1) 会費を滞納したとき
- 2) この会の会員としての義務に違反したとき
- 3) この会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき

第11条 (会員の特典)

本会の会員は、次の特典を優先的に受けることができる。

- 1) 本会が発行する機関誌の配布
- 2) 本会が発行する機関誌への投稿
- 3) 本会が開催する各種学術集会への参加
- 4) 本会関係出版物の購入の便宜

第4章 役員および評議員

第12条 (役員および評議員の構成)

役員および評議員は正会員をもって構成する。

- 1) 役員
会長 1名

4) 特殊購読会員 本会の趣旨に賛同し、本会の発行する会誌を広く閲覧する目的で定期購読する図書館等の団体

5) 名誉会員 (以下省略)

4) 特殊購読会員 10000円

2. 賛助会員および特殊購読会員の入会は、入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

副会長	3名以内
理事	10名以上、25名以内（会長および副会長を含む）
監事	2名
顧問	5名以内

2) 評議員

評議員	60名以上、150名以内
-----	--------------

第13条（任期）

役員および評議員の任期は2年とし、毎年その半数を改選する。再任については次のとおりとする。会長および副会長は同時に交代する。

会長	再任不可。
副会長	再任不可。
理事	再任可。ただし連続4年を越えることは出来ない。
監事	再任可。
顧問	再任可。
評議員	再任可。ただし連続4年を越えることは出来ない。

2. 理事および監事に欠員が生じたときは、後任者を会長が指名し、理事会の承認により決定する。この役員の任期は前任者の残任期間とする。

第14条（役員および評議員の機能）

- 1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は、会長を補佐し会長に事故があるときはこれを代行する。
- 3) 理事は、会長を補佐し会務を分担する。
- 4) 監事は、事業ならびに会計を監査する。
- 5) 顧問は、本会の事業その他について、求めに応じて助言をする。
- 6) 評議員は、理事会の諮問に応じ、本会の事業の遂行について審議し、答申する。

第15条（役員および評議員の選出）

- 1) 会長は、理事の中から互選によって選出し、正会員の承認によって決定する。
- 2) 副会長は、理事の中から会長が指名し、理事会および正会員の承認によって決定する。
- 3) 理事は、評議員の中から互選によって選出し、正会員の承認によって決定する。
- 4) 顧問は、正会員の中から会長が指名し、理事会の承認によって決定する。
- 5) 監事は、評議員の中から会長が推薦し、理事会の承認によって委嘱する。
- 6) 評議員は、正会員の中から選挙によって決定する。ただし、定員の一部は会長が指名し理事会の承認によって決定することができる。

第5章 会 議

第16条（理事会）

理事会は、毎年10回以上会長が召集する。ただし、理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求のあったときは、会長は臨時理事会を召集しなければならない。

2. 理事会の議長は会長とする。
3. 支部長および事務局長は理事会に出席することができる。
4. 理事会は現在理事数の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、書面をもって予め意志表示をした者は、出席者とみなす。
5. 理事会の議事は、この会則に別段の定めがある場合を除き、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のと

第13条（任期）

役員および評議員の任期は2年とし、毎年その半数を改選する。再任については次のとおりとする。

監事 再任可ただし連続4年を超えることは出来ない。

- 1) 会長は、評議員の中から互選によって選出し、総会における正会員の承認によって決定する。
- 2) 副会長は、評議員の中から互選によって選出し、総会における正会員の承認によって決定する。
- 3) 理事は、評議員の中から互選によって選出し、総会における正会員の承認によって決定する。
- 5) 監事は、評議員の中から互選によって選出し、総会における正会員の承認によって決定する。
- 6) 評議員は、正会員の中から選挙によって決定する。

3. 監事、支部長、事務局長および会長が必要と認めた者は理事会に出席することができる。

きは、議長の決するところによる。

第17条 (評議員会)

評議員会は、必要あることに会長がこれを召集する。

2. 評議員会の議長は会長とする。

第18条 (総会)

通常総会は、毎年1回会計年度終了後3か月以内に、会長が召集する。

2. 臨時総会は、理事会が必要と認めるときには、1か月以内に召集しなければならない。

3. 通常総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は、会議のつど会員の互選で決める。

4. 次の事項は、通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

1) 事業計画および収支予算についての事項

2) 事業報告および収支決算についての事項

3) 財産目録についての事項

4) その他、理事会に於いて必要と認めた事項

5. 総会は、正会員現在数の7分の1以上出席しなければ成立しない。ただし、当該事項につき書面をもって予め意思を表示した者は、出席者とみなす。

6. 総会の議事は、この会則に別段の定めがある場合を除いて、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

7. 総会の議事の要領および議決した事項は、会員に通知する。

第19条 (議事録の保存)

総会、理事会および評議員会の議事録は、議長が作成し、議長および出席者代表2名以上が署名捺印のうえ、これを保存する。

第6章 委員会

第20条 (委員会の設置)

本会の事業を円滑に運営するため、理事会の議決を経て、必要な委員会を置くことができる。

第21条 (委員長)

委員会の委員長は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。

第22条 (委員会規定)

委員会に関する規定は、理事会の議決を経て、別に定める。

第7章 研究会

第23条 (研究会の設置)

本会の対象とする領域に於ける学問または技術の発達を期するために、特定の重要な研究分野に関する研究会を設置することができる。

第24条 (研究会の運営)

研究会の運営に関する規定は、理事会の議決を経て、別に定める。

第22条 (委員会規程)

委員会に関する規程は、理事会の議決を経て、別に定める。

研究会の運営に関する規程は、理事会の議決を経て、別に定める。

第8章 職 員

第25条 (事務局長および職員)

- 本会の事務を処理するために、事務局長およびその他の職員を置くことができる。
2. 事務局長は、会長が任命し、事務全般を掌握する。
 3. 職員は、会長が任命する。

第9章 資産および会計

第26条 (資 産)

本会の資産は次のとおりとする。

- 1) 入会金および会費
- 2) 事業に伴う収入
- 3) 資産から生ずる果実
- 4) 寄付金品
- 5) その他の収入

第27条 (資産の管理)

本会の資産は、別に定める規定に従って、会長が管理する。

第28条 (収支決算)

本会の収支決算は、毎年会計年度終了後3か月以内に会長が作成し、監事の意見を付け、理事会および総会の承認を受けなければならない。

第29条 (会計年度)

本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日とする。

第10章 会則の改正

第30条 (会則の改正)

本会則は、理事会および総会に於いて、おのおの4分の3以上の議決を経なければ、改正することはできない。

第11章 補 則

第31条 (細 則)

本会則の実施についての細則は、理事会および総会の議決を経て、別に定める。

第32条 (施 行)

本会則は、1986年7月24日より施行する。

付 則

第33条 (初年度規定)

本会は、初年度にかぎり1年理事を置くことができる。

5) その他の財産および収入

本会の資産は、別に定める規程にしたがって、会長が管理する。

第31条 (規程および細則)

本会則の実施についての規程および細則は、理事会の議決を経て、別に定める。

昭和62年6月30日

人工知能学会・昭和62年度役員構成案

会 長	福村 晃夫	名古屋大学工学部情報工学科教授	(留任)
副会長	大須賀節雄	東京大学工学部境界領域研究施設教授	(留任)
”	戸田 厳	N T T 情報通信処理研究所所長	(新任)
理 事	相磯 秀夫	慶応大学理工学部教授	(留任)
”	池田 克夫	筑波大学電子情報工学系教授	(新任)
”	上野 晴樹	東京電機大学理工学部経営工学科教授	(留任)
”	開原 成允	東京大学医学部医療情報部教授	(新任)
”	加藤 康雄	日本電気C & C 研究所所長	(留任)
”	佐々木浩二	アドイン研究所代表取締役	(留任)
”	志村 正道	東京工業大学工学部情報工学科教授	(留任)
”	白井 良明	電子技術総合研究所制御部長	(留任)
”	杉江 昇	名古屋大学工学部電気工学第2科教授	(新任)
”	鈴木 則久	日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所	(新任)
”	反町 洋一	(株)三菱総合研究所 取締役	(新任)
”	田中千代治	三菱電機(株)中央研究所システム研究部長	(新任)
”	辻 三郎	大阪大学基礎工学部制御工学科教授	(留任)
”	堂下 修司	京都大学工学部情報工学科教授	(新任)
”	中島 昌也	松下電器産業(株)技術本部次長	(新任)
”	野口 正一	東北大学電気通信研究所 教授	(留任)
”	萩原 宏	京都大学工学部情報工学科教授	(新任)
”	森 健一	(株)東芝 総合企画部	(留任)
”	山本 英雄	K D D 研究所次長	(新任)
”	横井 俊夫	I C O T 次長	(新任)
”	渡辺 正信	日本テレビ・イクイップメント(株)取締役	(新任)
監 事	尾上 守夫	(株)リコー研究所所長	(留任)
”	山田 博	(株)富士通研究所 川崎研究所所長	(新任)
顧 問	猪瀬 博	(財)学術情報センター 所長	(留任)
”	榎本 肇	富士通国際情報社会科学研究所所長	(留任)
”	大野 豊	京都大学工学部情報工学科教授	(留任)
”	坂井 利之	京都大学工学部情報工学科教授	(留任)

人工知能学会・昭和62年度評議員構成案

1) 評議員構成

大学関係	82名
国立・公的機関関係	16名
企業関係	46名
合 計	144名

注：氏名左側の数字は任期で、

1は63年3月末まで

2は64年3月末まで

2) 大学関係名簿

2	相磯 秀夫	慶応大学工学部教授
1	相原 恒博	愛媛大工学部電子工学科教授
2	甘利 俊一	東大工学部計数工学科教授
1	有川 節夫	九大理学部基礎情報学研究施設教授
2	有本 卓	阪大基礎工学部機械工学科教授
1	安在 弘幸	九州工大工学部情報工学科教授
2	井口 征士	阪大基礎工学部制御工学科教授
1	池田 克夫	筑波大学電子情報工学系教授
2	石井 威望	東大工学部産業機械工学科教授
1	石田 晴久	東大大型計算機センター教授
2	石綿 敏雄	茨城大教養部教授
1	磯道 義典	広島大総合科学部情報行動科学科教授
1	市川 惇信	東工大総合理工学研究科教授
2	市川 忠男	広島大工学部電気系教授
1	伊藤 紘二	東大工学部境界領域研究施設助教授
2	伊藤 資康	東北大工学部情報工学科教授
2	稲垣 康善	名大工学部電気工学科教授
1	井上 和子	津田塾大学芸学部英文学科教授
1	井上 博充	東大工学部機械工学科教授
2	茨木 俊秀	京大工学部数理工学科教授
1	岩井 壮介	京大工学部精密工学科教授
2	上野 晴樹	東京電機大学理工学部経営工学科教授
2	梅谷 陽二	東工大工学部機械物理工学科教授
2	大須賀 節雄	東京大学工学部境界領域研究施設教授
1	岡田 直之	大分大工学部組織工学科教授
2	岡本 栄一	日本女子大文学部教育学科教授
1	小沢 一雅	大阪電通大工学部教授
1	開原 成允	東京大学医学部医療情報部教授
2	小原 啓義	早大理工学部教授
1	加藤 誠己	上智大理工学部電気電子工学科教授
1	角所 収	阪大産業科学研究所教授
2	河口 英二	九大総合理工学研究科情報システム学専攻助教授
2	菅 忠義	学習院大理学部数学科教授
2	上林 弥彦	九大工学部情報工学科教授
1	北沢 克明	岐阜大医学部眼科学教授
2	北橋 忠宏	阪大産業科学研究所教授
1	木村 正行	東北大工学部情報工学科教授
2	斉藤 忠夫	東大工学部電子工学科助教授
2	佐々木 慎一	豊橋技科大副学長
1	佐藤 登志郎	北里大医学部内科学教授
2	志村 正道	東京工業大学工学部情報工学科教授

2	白井	克彦	早大理工学部電気工学科教授
1	杉江	昇	名古屋大学工学部電気工学第2科教授
2	高木	幹雄	東大生産技術研究所教授
1	田中	穂積	東工大工学部情報工学科教授
2	田畑	孝一	図書館情報大図書館情報学部教授
2	辻	三郎	大阪大学基礎工学部制御工学科教授
1	当麻	喜弘	東工大工学部情報工学科教授
2	都倉	信樹	阪大基礎工学部情報工学科教授
2	戸田	正直	中京大文学部心理学科教授
1	豊田	順一	阪大産業科学研究所教授
2	鳥居	宏次	阪大基礎工学部情報工学科教授
1	鳥脇	純一郎	名大工学部情報工学科教授
2	土居	範久	慶大情報科学研究所教授
1	堂下	修司	京都大学工学部情報工学科教授
1	長尾	真	京大工学部電気第2学科教授
2	長田	正	九大工学部電気工学科教授
1	新美	康永	京都工芸繊維大工芸学部教授
2	野口	正一	東北大学電気通信研究所教授
2	野崎	昭弘	国際キリスト教大教養学部教授
1	野下	浩平	中央大理工学部管理工学科教授
1	萩原	宏	京都大学工学部情報工学科教授
1	長谷川	健介	東工大工学部制御工学科教授
2	波多野	誼余夫	独協大教養学部教授
1	原田	行男	日大経済学部教授
2	平川	顕名	京大医学部教授
1	平松	啓二	東京電機大工学部電気通信工学科教授
2	福村	晃夫	名古屋大学工学部情報工学科教授
2	藤崎	博也	東大工学部電子工学科教授
1	藤原	讓	筑波大電子情報工学系教授
2	古川	俊之	東大医学部医用電子研究施設教授
2	前川	禎男	神戸大工学部システム工学科教授
2	松尾	文碩	九大大型計算機センター研究開発部長
1	間野	浩太郎	青学大理工学部経営工学科教授
2	向殿	政男	明治大工学部電子通信工学科教授
1	村岡	洋一	早大理工学部電子通信学科
2	森下	巖	東大工学部計数工学科教授
1	安田	靖彦	東大生産技術研究所教授
1	山下	一美	大阪市立大工学部電気工学科教授
2	山本	毅雄	図書館情報大図書館情報学部教授
2	吉田	将	九州工大情報工学部創設準備室教授
1	吉田	雄二	名大工学部情報工学科教授

2) 国立・公的機関関係名簿

2	井上	久仁子	機械技術研究所数理工学課長
1	植村	俊亮	電総研プログラム研究室長
2	大島	正光	東大元教授ノ医療情報システム開発センター理事長
1	上条	史彦	情報処理振興事業協会理事
1	木村	幸男	鉄道技術研究所 情報システム研究室
2	白井	良明	電子技術総合研究所制御部長
2	鈴木	道夫	電力中央研究所 経済研知識処理研究室
2	田中	卓史	国立国語研究所
1	津田	一郎	新技術開発事業団
2	棟上	昭男	電総研ソフトウェア部長
1	原田	実	電力中研経済研究所情報システム部

1	瀧	一博	I C O T 所長
2	古川	康一	I C O T 第一研究室長
1	山下	紘一	国際電気通信基礎技術研究所
1	横井	俊夫	I C O T 次長
1	吉岡	毅泰	宇宙開発事業団

4) 企業関係

2	浅野	俊昭	キャノン 情報システム研究所知能工学研究部
2	荒川	淳三	新日鉄 情報通信システム部
1	石井	信義	富士電機 情報処理事業部
2	石原	孝一郎	日立製作所 システム開発研究所第5部長
2	大泊	勝	朝日新聞社 技術本部長
2	尾河	洋一	富士ゼロックス 常務取締役総合研究所長
2	尾上	守夫	(株)リコー研究所所長
2	加藤	康雄	日本電気C & C 研究所所長
1	河田	勉	東芝 総合研究所
2	後藤	敏	日本電気 C & C システム研究所応用システム研究部長
1	桜井	武一	東京電力 技術開発本部技術研究所システム研究室
2	佐々木	浩二	(株)アドイン研究所代表取締役
1	佐藤	繁	富士通研究所 川崎研究所情報処理研究部門長
2	佐野	元	野村コンピュータシステム 研究開発部次長
2	椎野	努	沖電気工業 研究開発本部総合システム研究所
2	志村	則彰	カシオ計算機 開発副本部長
1	下村	尚久	東芝 情報通信システム技術研究所長
1	鈴木	則久	日本アイ・ビー・イー(株)東京基礎研究所
1	反町	洋一	(株)三菱総合研究所取締役
2	高橋	栄	日立製作所 ソフトウェア工場A I プログラム部部長
1	田中	千代治	三菱電機(株)中央研究所システム研究部長
2	棚橋	純一	富士通研究所 人工知能研究部
1	谷	友幸	日本デンタル・イクイップメント人工知能技術センター人工知能企画課長
1	田畑	晃	富士通エフ・アイ・ビー システム部
2	塚本	克治	N T T 基礎研究所
2	戸田	徹	N T T 情報通信処理研究所所長
1	戸田	保一	野村コンピュータシステム 取締役
2	土井	康継	住友電気工業 大阪製作所開発本部電子技術研究部次長
1	中島	昌也	松下電器産業(株)技術本部次長
2	西島	誠一	東芝 システムソフトウェア技術研究所所長
1	似鳥	一彦	沖電気工業 研究開発本部総合システム研究所
2	服部	幸英	日本鋼管 C A D / C A M センター
1	真名垣	昌夫	日本電気 C & C 情報研究所情報基礎研究部長
1	三雲	正夫	清水建設 技術開発本部
1	美濃	順亮	花王 知識情報科学研究所 所長
1	村上	国男	N T T 情報通信処理研究所
2	毛利	良男	富士通(株)ソフトウェア開発本部ソフトウェア事業部AI開発推進室長
2	森	健一	(株)東芝 総合企画部
1	森	俊二	日本シュルンベルジェ(株)システム事業部モデリング部
1	森	文彦	日立製作所 システム開発研究所第5部主任研究員
2	山田	博	(株)富士通研究所川崎研究所所長
1	山本	英雄	K D D 研究所次長
1	山本	正隆	沖電気工業 総合システム研究所長
2	米沢	啓明	日本生命保険相互 取締役情報システム部長
2	米山	正秀	リコー 中央研究所
1	渡辺	正信	日本デンタル・イクイップメント(株)取締役